

平成30年度 日本大学危機管理学部個人研究費 研究実績報告書

所属： 危機管理学部 危機管理学科

資格： 専任講師

氏名： 工藤 由布子

<p>研究課題</p>	<p>19世紀の英国の小説家、エミリ・ブロンテの作品(詩と小説)の研究</p>
<p>報告の概要</p>	<p>研究目的及び研究概要</p> <p>平成30年度個人研究費は、以下に述べるような、研究計画を実行するために使用された。エミリ・ブロンテの作品は、非常に感情豊かに描かれており、ともすると狂氣的とも言える感情の振幅がある。特に、『嵐が丘』の主人公であるヒースクリフには、その歓喜と苦悩を「同時に」感じる描写が数多くあり、その剥き出しな感情は人間としての原始的なものを読者の心に訴える。この研究は、エミリの作品に描かれるその両極的な人間感情を、天国と地獄、天使と悪魔、飛翔と沈潜など、様々な表現で描写する幾つかの文学作品と比較しながら、その特徴をまとめていくものである。</p> <p>研究成果</p> <p>「個人研究費」をもちいた今年度の研究成果と、次年度に対する反省点を以下、簡潔に述べることにする。研究成果としては、日本大学の「平成30年度学部連携ポスターセッション」でポスター発表をしたことである。エミリの作品では、人間感情の両極性の共在や混交が、「自我」をもたらす。その「自我」は、神や悪魔のできないことをするキャサリンの「意思」、また天国と地獄を凌駕する人の「意思」として、『嵐が丘』や「哲学者」で描かれる。この概要を、ポスター形式で、文学の研究者以外でも理解できるようにまとめて発表した。談話の中で、両極的な表現が無意識に使われているということを見ると、ブロンテは二重(多重)人格だったのではないかと指摘を受け大変興味深かった。反省点として、今年度は前年度の研究をポスター形式で取りまとめるという作業に留まったことである。次年度はこのテーマを更に広げて他の作品との比較を含め、研究を進めていきたいと考えている。</p>
<p>研究業績</p>	<p>・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数</p> <p>なし</p> <p>・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所</p> <p>発表者：工藤由布子、平成30年度学部連携ポスターセッション(日本大学)、2018年7月21日、日本大学会館2階大講堂、発表No.12「エミリ・ブロンテの詩と小説」。</p> <p>・その他 *書評、雑誌投稿など 著書名・標題・掲載誌名・発表年月・発行所 *講演会、研究会等での講演・発表 発表者・発表年月・題目名・講演会等名 *社会貢献活動等</p> <p>なし</p>